

社会福祉学、英語教育学、法律学、社会学、教育学、統計学、体育学、政治学、国際関係学、コミュニケーション関係学、経営学、経済学、会計学、心理学、被服学、物理学、化学、機械工学、建築学、経営工学、数学、電気通信工学、土木工学、生物学、美術・デザイン学グループ

分野連携アクティブ・ラーニング対話集会 開催要項

オンライン開催

1. 開催趣旨

日本は世界の中で成長力、競争力、デジタル化など多くの分野で地盤沈下を起こしており、危機的な状況にあります。その源泉の多くは人材の育成にあるといっても過言ではありません。

今、国・社会が大学教育に求めているのは、生涯に亘って未知の時代を切り拓いていく力を備えた人材の育成であり、学生一人ひとりが自分の考えをもって主体的に関わっていけるよう訓練する仕組みを創り出していくことではないかと考えます。

「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン(答申)」で指摘の通り、学修者本位の教育への転換、ニューノーマル社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい学びの創出、学修成果の質保証に向けた対応が急がれており、ICTを大胆に取り入れる中で、教育改善・学修支援への変革が進みつつあります。デジタル化が目的ではなく、それを手段として活用し、学修者一人ひとりに配慮した教育の仕組み、学びの自由度や学修意欲を高める工夫を通じて、学生に最良の学びの場を如何にして開発・提供していくかが喫緊の課題となっています。

そのような観点から本対話集会では、ICTを活用した学びの個別最適化への取組み、対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド授業やPBLの取組みを如何にデザインし、問題発見・課題設定解決型教育を推進していくべきか、学修環境も含めて探求し、改革行動につなげていく場としました。

2. プログラム

(1) 開催趣旨の説明

(2) ICTを活用したアクティブ・ラーニングの話題提供

① 会計学分野

「反転授業に教室外非同期型グループワークを取り入れた授業方略の取組み」

* 事前学修でグループの各学生が企業の経営戦略及び財務データを調べた結果をGoogle Documentに記名で書き込み共有した上で、対面授業のグループワーク演習により、知識の定着・活用が向上した授業改善を紹介します。

関西学院大学国際学部教授 木本 圭一 氏

② 社会福祉学分野

「『デザイン思考』を取り入れた福祉実践教育の試み」

* 身近な地域を素材に学生たちの「発見」をもとに創り上げていく「チーム型演習」を取り入れる中で、ネット上で有益な情報を福祉的視点から発掘し、地域の固有情報と組み合わせ「誰でもかき出せる情報」にデザイン(福祉マップ化)する効果と課題を紹介します。

淑徳大学総合福祉学部教授 戸塚 法子 氏、松山 恵美子 氏

③ 社会学分野

「ICTを活用した商品開発・販売の地域振興課外演習の試み」

* 学生自身が開発に取り組んだ商品及び販売の課題を掘り起こすために、情報技術を駆使してデータを収集・分析し、その結果を地域協力者に提供することにより、学生が学びの重要性に気づき主体性が身に付く学びの試みを紹介します。

東北工業大学ライフデザイン学部講師 亀井 あかね 氏

④ 数学分野

「数学授業の学修意欲を維持し、学修成果の向上を目指した遠隔授業方略の試み」

* 90分のフルオンデマンド授業では成績下位者をつなぎとめられないので、全員に60分のオンデマンド授業を行った後で希望学生が30分のリアルタイム授業又は対面授業(ハイフレックス)にした結果、学修意欲の継続で下位者が減少した授業実践を紹介します。

流通経済大学法学部教授 井川 信子 氏

⑤ コミュニケーション関係分野

「ICTを活用した自立的・自律的な国際コミュニケーション・スキルズ演習の取組み」

* 米国、英国などの学生たちとLMSで学生が自主的に作成したPPTや画像、ビデオを共有して意見を述べ合い、他者理解と自己表現スキルを体験学習する場としている。また、ZoomなどSNSを活用し、学生たちのスケジュールに合わせビデオチャットを行うことにより自立的・自律的なグローバルコミュニケーション演習が可能となった授業実践の取組みを紹介します。

早稲田大学商学学術院教授 鈴木 利彦 氏

⑥ 国際関係学分野

「地域社会と大学を結ぶハイブリッド型フィールド調査実習の効果と課題」

* 学生主導によるオンラインでのインタビュー及びアンケート調査と短期集中型で実施したフィールド調査は、現地の受け入れ負担の軽減、持続性においても評価された。PBLの主体性及び手法が学生と地域双方において共有された点が新たな成果となった。一方、履修者数が限られるという点で、指導体制の充実をどこまで図れるかという授業実践の課題も含めて紹介します。

東洋大学国際学部非常勤講師 柏崎 梢 氏

- ⑦ 教育学分野
「学校の問題を分析し、解決策を検討するケースメソッドに ICT を活用した効果」
* 学習成果物の共有・相互閲覧に難があったため、ケースメソッドを個人で検討した結果を収めたファイルやグループでの検討内容を記述するファイルをネット上の共有フォルダに置くことで、学生が相互に参照できるようになり、グループ内やグループ間での共有を促進できた授業実践について紹介します。
創価大学教育学部教授 舟生 日出男 氏
- ⑧ 統計学分野
「データサイエンス教育における対面とオンライングループワークの比較」
* 社会調査実習でのオンラインと対面時の学生スタッフにおける効果の比較と、コンテスト参加に向けた OneNote 活用の対面とオンラインの授業として、日々の議論、調査分析の記録・結果をその中に置き共有することで、グループワークの合意形成を早める効果が見られた授業実践の比較について紹介します。
実践女子大学人間社会学部教授 竹内 光悦 氏、武蔵野大学工学部教授 西川 哲夫 氏
- ⑨ 機械工学分野
「DX ツール oVice を用いた課外学習支援の試み」
* 従来対面で行っていた課外での学習支援を、DX ツール oVice を用いてオンラインで実施したメタバース空間にアバターとして参加することにより、教員と学生、学生間での教え合いを可能とした授業実践の試みについて紹介します。
金沢工業大学工学部教授 河合 宏之 氏

(3) 意見交流

- ① ICT による学びの個別最適化の工夫、ハイブリッドによる学修の質・効果を高める授業(反転授業 PBL 等)の工夫と課題
* 遠隔授業の質を担保する方略、対面と遠隔を効果的に組み合わせた反転授業の普及に向けた対策などを中心に議論します。また、学外の学生・有識者を交えた問題発見・課題設定解決型授業(PBL)の理解促進策も予定しています。
- ② ハイブリッドな学修プラットフォームに必要な機能の強化対策、授業価値の最大化に向けた FD 対策の在り方
* DX 化に伴う学修支援の環境整備、ICT スキル支援体制の強化、FD による質保証のコンセンサス作りなどの観点で議論を予定しています。
- ③ ネット上で多分野の知識を組み合わせ、知の創造を訓練する実験授業のニーズ
* 授業の自前主義からの脱却を如何にすすめるかなど、教育のオープンイノベーションのニーズ促進など理解の共有を予定しています。
- ④ PBL で獲得する思考力等の点検・評価・助言モデル構想の実現可能性
* 「考える力」の達成度を点検・評価・助言するモデル構想のニーズ、実現可能性・課題について議論を予定しています。

4. 参加対象者：国・公・私立大学の教員、職員、授業補助学生(TA・SA)など

5. 開催日時：令和4年12月17日(土) 13:00~17:00

6. 会場：オンライン(Zoom 使用)による開催とします。なお、申込者には、対話集会視聴方法等について、申込書に記入いただいたアドレスに12月13日(火)にメールでお知らせします。

7. 定員：200名(先着順で受け付けます)

8. 参加費：無料

9. 資料の配信

話題提供の「発表資料と発表映像」を以下のページに掲載します。(12月10日~17日予定)

<https://www.juce.jp/senmon/active/>

申込者は、受付後お知らせする「参加ID とパスワード」を入力することでご覧になれます。

10. 参加申込

別紙申込書に必要事項とアンケートを記入の上、メール添付又は FAX にて**令和4年12月9日(金)まで**に申し込み下さい。申込締め切り後でも受け付けることがありますので、事務局に問い合わせ下さい。

メール送信先：info@juce.jp F A X 送信先：03-3261-5473 TEL：03-3261-2798

11. その他

12月17日(土)終了後、参加者には12月21日(水)から26日(月)の6日間、対話集会の開始から終了までの録画を閲覧できるようにします。また、意見交換による課題等の整理は後日、改めて文章で本協会の Web サイトに掲載する予定にしています。